



長い夏休みが終わり、教室には子供たちの元気な声が戻ってきました。友達と夏休みの思い出や製作した作品について話すなど活気にあふれ、一人一人の充実した夏休みの様子が伺えます。

さて、この度、特別支援教育だより『Ciao!!』を発行することにしました。発行者の渡邊（特別支援コーディネーター）は、数年前までイタリア共和国に3年間住んでいました。イタリアの人は老若男女、障がいがあっても、知らない人とでもみんな『Ciao!!』と言うだけで、初対面でも昔からの友達のように会話を乐みます。妊婦さんやベビーカーをおすママにも小さい子供にもみんなやさしく、インクルーシブが浸透している国だと感じました。そんなイタリア語の挨拶である『Ciao!!』をタイトルに据えました。不定期の発行ですが、学校から御案内したいことや宇都宮市からお知らせがあった時などに発行したいと思います。

学校と家庭が「いっしょに」を合言葉に、よりよく連携していけたらと思います。保護者の皆様と学校がよりよい関係で学び合うことにより、信頼関係が築かれていきます。子育てのパートナーとして、お子様の将来を共に支えていけるようお互いの立場を理解し合い、お子様のためによい方法をいっしょに考えてまいります。



ちゃんとしなさいの話



『ちゃんとしなさい。』と言われて、お子さんはどんな反応をしますか。『ちゃんと』って何だろう……。聞いただけではどうしたらよいか困ってしまう子もいます。子供たちに指導するときに私はいつも心がけているのですが、『ちゃんと』と言わないで、「両足をそろえます」等といったように行動を具体的に話すようにしています。それは、そよかぜ学級の子供たちから『渡邊先生、ちゃんとしましうってなあに？』と指摘があったからです。

同じことを言われ続けて、もうすっかり嫌になってしまうこともあります。漢字が覚えにくかったり、こつこつと取り組むドリル学習が苦手だったり、話を聞いて理解することが苦手で、指示を聞いてもすぐに動くことが困難だったり、友達の気持ちが分からなくてついトラブルになってしまったり……。その度に、「ちゃんとしなさい！」「ちゃんとやらないからでしょう。」「落ち着きがない。」「授業中、ちゃんと集中しないからだ！」「人の気持ちを考えなさい。」と叱られる（怒られる）。

もちろん、『ちゃんと』と言われて、自分なりに推測して空気を読んで、なんとなく『ちゃんと』できる能力のあるお子さんもいます。でも『ちゃんと』の意味がわかりにくいお子さんがいることも確

かなのです。子供が考える『ちゃんと』というのは、大人が考えている『ちゃんと』とは、かけ離れていることもあります。

その子に合わせて分かりやすい表現を使って説明をするなどの意思疎通の配慮、具体的に話すことは、“合理的配慮”のひとつです。その子に合わせた特別な配慮である合理的配慮は決して特別扱いをすることではありません。

子供たちには、それぞれの特性に合った学び方をする権利があります。もし、お子さんの学習状況や発達、感情のコントロールなどに、おうちの方がなんらかの違和感を覚え、『うちの子もちゃんとできたらいいのにな。環境さえ整ったらできる子なのに。ちょっと工夫があれば……。』そう思ったら！それはチャンスだと思うのです。

保護者はだれよりも一番に、お子さんの幸せを考えます。特定の学習が困難、一斉指導が通りにくい、集団行動がとりづらい、情緒不安定、不登校傾向、その子なりの困り感に合わせた工夫のもとで、その子なりの取組ができ、お子さんが幸せに安心して学校生活を送ることができる、そんな取組のあれこれを、少しずつお伝えしていけたらと思っています。

本市・本校の特別支援教育

(特別支援教育豆だより 参照)

	特別支援学級 (H22年度開設)	特別支援教室 (H20年度開設)
在籍	特別支援学級の在籍	通常の学級の在籍
担当者	特別支援学級担任(教員)	かがやきルーム指導員(非常勤嘱託員)
愛称	そよかぜ学級 (本校独自の名称)	かがやきルーム(宇都宮市統一の名称) →特別支援学級との混乱を避けるため
正式名称	特別支援学級	特別支援教室
指導時数	○ 特別な教育課程 → 児童の教育的ニーズによって決定	1週間に5時間以内 ○ 通常の教育課程 (校内支援委員会をひらき検討する)
利用の手続き	入級の決定については校内教育支援委員会の他、原則として教育センターにおける就学相談を経て入級する。保護者の同意が必要。	校内支援委員会(校長・副校長・教務・学年主任・担任・養護教諭・かがやきルーム指導員・SCM・特別支援コーディネーター等が参加する会議)をひらき、対象者の困り感を共有し、かがやきルームでの指導内容、指導時数等について決定する。保護者の同意が必要。

○特別支援学校・・・宇都宮市においては国立・県立の7つの学校があります。

- ・視覚障がい(盲学校) ・聴覚障がい(聾学校)
- ・知的障がい(富屋・宇大附属特別支援学校)
- ・肢体不自由(のぞわ・わかき特別支援学校)
- ・病弱(岡本特別支援学校)

○特別支援学級

本市には、

- ・ 難聴 ・ 知的障がい
- ・ 肢体不自由 ・ 自閉症 ・ 情緒障がい

4種類の学級があります。

特別支援学級でのエピソード



『渡邊先生！ぼく、そよかぜさんの教室には入っちゃダメなんだと・・・今日、今まで思っていました！今日、本っっ当にはじめておじゃましたんです。ここはなんだかすごいですね！いろいろとおもしろそうなものが・・・こんなにたくさんあるなんて！知らなかった！！うらやましいです、A君が！』

これは、声をかけてくれるのを待つように、そよかぜ学級の入り口で昼休みにもじもじしていた高学年の子からの言葉です。A君はそよかぜ学級在籍です。A君は、交流学級の友達と休み時間に遊んだり、朝の会や給食当番を一緒に行ったりしています。それにALTの授業にも意欲的に参加しています。でも、A君は何かみんなとは違うのでしょうか。いえいえ、ちょっとだけ支えとフォローが必要なだけ。みんなと同じ、昭和小の児童です。かけ算はスラスラと正しく唱えるし、玉止めもきれいにできます。お裁縫の糸通しは毎回一発で成功します！できることとできないことの差はあるけれど、素直で笑顔いっぱい、学校が大々好きな子供たちがそよかぜ学級には在籍しています。

ちょっと気になってはいるけれど、一歩もそよかぜ学級に足を踏み入れたことがないお子さんがほとんどのようです。いつでも大丈夫です。ちょっぴりリラックスをしに、休み時間にちょっと雑談をしに、そよかぜ学級にいつでも遊びに来てほしいと思っています。

発行者：特別支援コーディネーター・SCM・そよかぜ学級担任 渡邊 由香里